

令和7年度学校評価実施計画

学校名	大分豊府中学校・高等学校
-----	--------------

前年度評価結果の概要	<p>○ICTを活用して生徒の主体的で対話的な授業の実践は進んでいる。次年度は授業が授業以外の場面での学習につながる工夫が必要となる。また、教科ごとの中高連携をより深め、6年間を見通した指導計画の策定が必要である。</p> <p>○生徒の主体性を発揮できる生徒主催の学校行事を年間計画に位置付け、早めの企画立案・運営の機会提供を行うべきである。</p> <p>○中高交流の行事については成果が上がった。次年度も修正を加えながら継続して取り組む必要がある。また、教科のみならず分掌の連携も深め、6年間で連続性・系統性のある学校行事の流れを構築していくべきである。</p> <p>○生徒と教員に時間を戻していく取り組みをすすめることができた。次年度も行事や業務の精選、平準化をさらに進め、休みを取りやすい職場環境の醸成を図るべきである。</p> <p>○部活動の地域移行について、今年度の課題を改善しながら、休日の完全移行・平日の部分移行を進める必要がある。</p>
------------	---

学校教育目標	中期目標	重点目標
創造的な知性と豊かな人間性、逞しさを備え、高い志を持って国際社会でリーダーとして活躍できる人材の育成	<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯にわたり学び続けるための思考力・判断力・表現力及び主体的な学びの態度を育成する教科指導の推進 2 生徒が自己・他者理解を深め、世界的視野で積極的に活動する姿勢を醸成する特別活動や人権教育の推進 3 中高一貫した進路指導の体系化を進めるとともに、進学力を向上させる組織的な指導システムの構築 4 中学校・高校の全教職員が協働して、正確・迅速・効率的に業務を遂行できる学校運営体制の確立 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の主体的な学びを育てる教育活動と授業改善の推進 2 生徒の課題探究力および進学力の向上 3 生徒の社会性および国際感覚を養う体系的指導システムの構築 4 教職員のワークライフバランスの推進

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL
1 生徒の主体的な学びを育てる教育活動と授業改善の推進	<p>○生徒アンケートにおける「4」の回答が70%以上</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業において主体的に考え、積極的に参加した 2 授業に満足しており、授業内容に興味がある <p>○職員アンケートにおける「4」の回答が60%以上</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の主体性を向上させる取組や働きかけを行っている 2 主体的な学習姿勢を育成するためにICT機器を活用している 	<p>(1) 生徒が「自ら計画・立案・運営に取り組み、活動を振り返って次につなげていける」教育活動の提供</p>	<p>中:特別活動行事「豊饗祭体育の部」や「文化発表会Iris」等において、実施後には次に向けての改善策を生徒自らが毎回提案</p> <p>高:特別活動行事「NEO」や「豊饗祭」等において、実施後には次に向けての改善策を生徒自らが毎回提案、また「NEO」においては、中高合同で振り返りを行い改善策を提案</p>	<p>PL:特別活動主任 SL:学年主任</p>
		<p>(2) 生徒が「授業内容に興味や関心を持ち、自ら積極的に学習に取り組み、振り返って次につなげていける」授業の実践</p>	<p>中:年間を通じ、全授業者によるICTを活用した主体的・対話的な授業の実践とその充実</p> <p>高:年間を通じ、単元に1度以上探究的活動を行うとともに、ICT(メタモジ)をポートフォリオとして単元の復習に活用</p>	<p>PL:指導教諭 SL:教科主任</p>
2 生徒の課題探究力および進学力の向上	<p>○生徒アンケートにおける「4」の回答が70%以上</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 総合的な学習・探究の時間に積極的に取り組み、主体的に学ぶ姿勢が身についた 2 社会に出たときに役立つ力が、学校でついていると思う <p>○国公立大学入試における総合型および学校推薦型入試の合格率60%以上</p>	<p>(1) 総合的な学習・探究の時間および授業における課題探究型の学習実践</p>	<p>中:ミラNaviや授業におけるアウトプットスキルの育成を目指した、学期に最低1回の発表機会の創出</p> <p>高:ミラNaviや授業における課題発見・情報収集・分析検証力の育成を目指した、校外コンテストへの応募</p>	<p>PL:進路指導主任 SL:学年主任</p>
		<p>(2) 自己の可能性を広げる進路選択に挑戦する力の育成</p>	<p>中:進路講演会(全校対象で年1回、2・3年対象で年1回)の充実と、最難関・難関大志望者指導(3年対象で年8回)の実施による進路意識の高揚</p> <p>高:進路講演会やキャリア育成に関する講演会や体験講座(年間10回以上)の実施による進路意識の高揚</p>	<p>PL:進路指導主任 SL:学年主任</p>
3 生徒の社会性および国際感覚を養う体系的指導システムの構築	<p>○生徒アンケートにおける「4」の回答が70%以上</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校生活におけるルールを理解し、進んで守ることができた 2 授業以外の場で、他者の意見を尊重しながら協働活動ができていく <p>○職員アンケートにおける「4」の回答が60%以上</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒に他者と協働する活動を体験させ、社会性を育てることができている 2 生徒の視野を世界に向けての働きかけを行っている 	<p>(1) 他者との協働による社会性育成の活動促進</p>	<p>中:学校行事等で、クラスや学年の枠を越えて交流し活動する機会を、各学期1回以上創出</p> <p>高:生徒が自治活動を通じ、主体的・良識的判断力を身に付けることを目指し、学校への要望を年2回提出</p>	<p>PL:生徒指導主任 SL:特別活動主任・学年主任</p>
		<p>(2) 国際感覚を養うための体系的な指導システムの構築</p>	<p>中:道徳の授業において、基本的な社会性や人権意識を育むとともに、世界に目を向ける題材による学習を年間1回以上実施</p> <p>高:学校行事や授業等において、ALTや国際的に活躍する外部人材等と交流する機会を年間1回以上創出</p>	<p>PL:グローバル教育担当 SL:人権教育担当</p>
4 教職員のワークライフバランスの推進	<p>○職員アンケートにおける「4」の回答が60%以上</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ワークライフバランスを保つために、業務改善・休暇取得に意識して取り組んでいる 2 業務改善に向けてICT機器を積極的に活用している <p>○休暇取得促進の取り組みにおいて</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 年度内の年休取得日数15日以上が70%以上 2 時間外勤務時間80時間未満が80%以上 	<p>(1) 休暇取得や定時退庁を促進する職場の環境づくり</p>	<p>中:部活動の地域移行を、1学期の休日は複数回、2学期以降の休日は全て実施</p> <p>高:年間3回の業務改善提言シートを活用した、職場環境の現状把握とその改善</p>	<p>PL:管理職 SL:衛生管理者</p>
		<p>(2) ICT機器の活用による業務の効率化</p>	<p>中・高:採点業務における「百問繚乱」の使用率90%と、情報共有のためのGoogleドライブ共有フォルダの整理・活用(年に2回状況確認)</p>	<p>PL:教務主任 SL:教科主任</p>